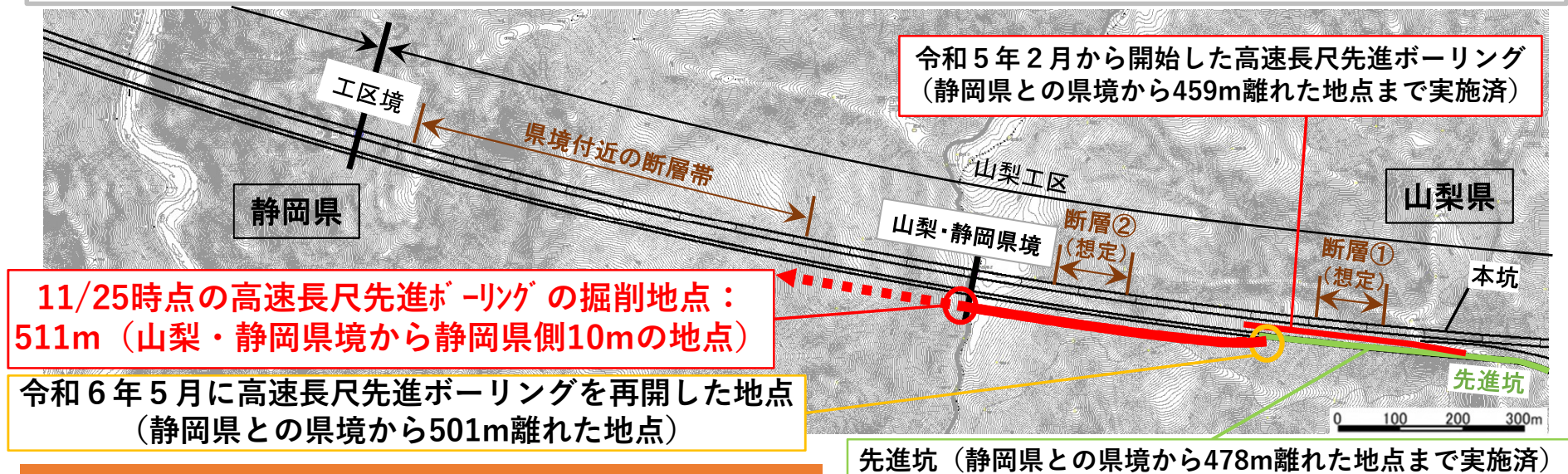


山梨県側から静岡県内に向けた高速長尺先進ボーリング

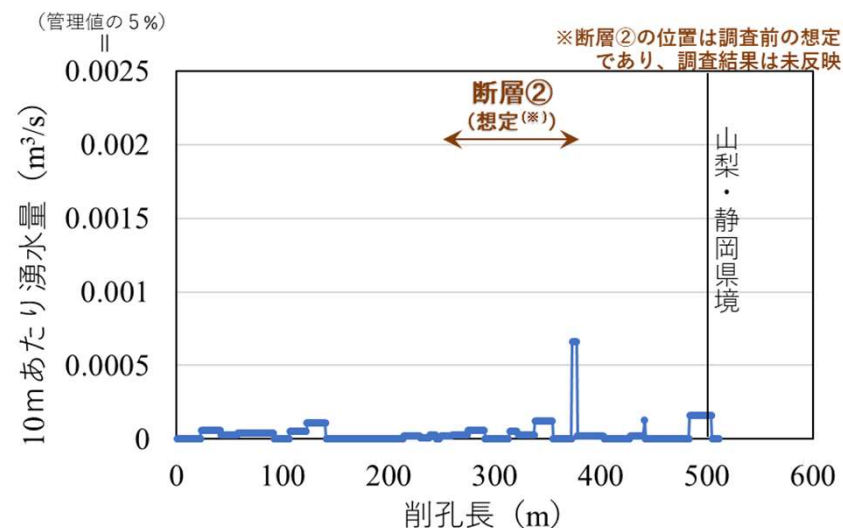
資料 2 - 1

○山梨県内のトンネル(先進坑)からの高速長尺先進ボーリング調査により、静岡県側の地質・湧水の情報事前に収集。令和5年2月21日より開始。令和5年10月2日から定期メンテナンスを実施し、令和6年5月20日より再開。



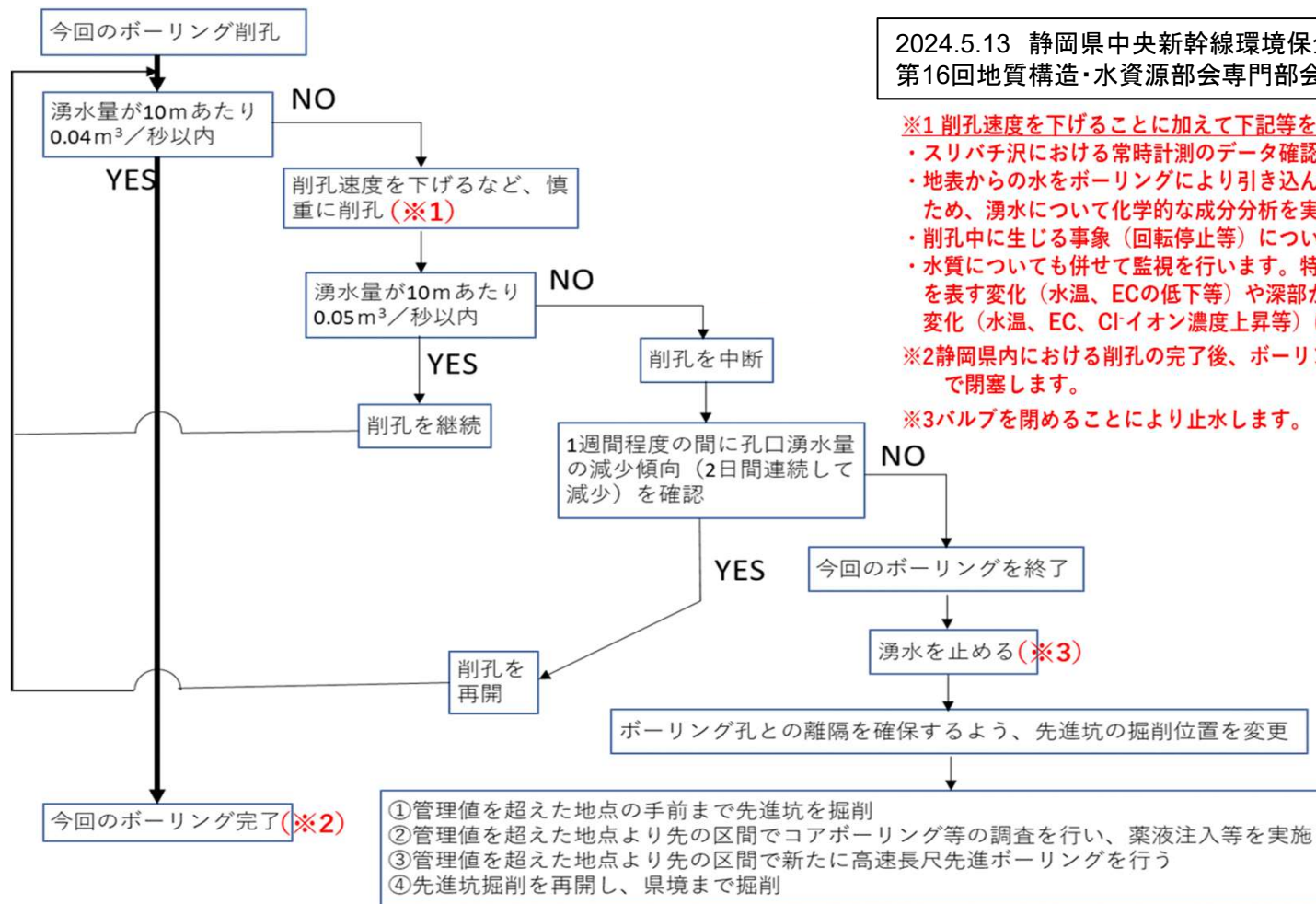
高速長尺先進ボーリングの状況

- 令和5年2月から開始した高速長尺先進ボーリングにおける孔口湧水量は、断層①(想定)を含め少ない状況。
- これは、東西方向に大きな地圧を受けて圧縮されているため、岩盤内の透水性を左右する亀裂が密着し、水が非常に浸透しにくい状況であると考えている。
- 令和6年5月に再開した高速長尺先進ボーリングにおける孔口湧水量も、脆い区間を含めて少ない状況が続いている。
- 10mあたり湧水量については最大0.00066m³/秒(0.66リットル/秒)程度であり、管理値である10mあたり0.05m³/秒(50リットル/秒)と比べて非常に小さい状況(管理値の約1.32%)が続いている。



令和6年5月に再開した高速長尺先進ボーリングの削孔長と10mあたり湧水量

高速長尺先進ボーリングにおける調査中の管理フロー

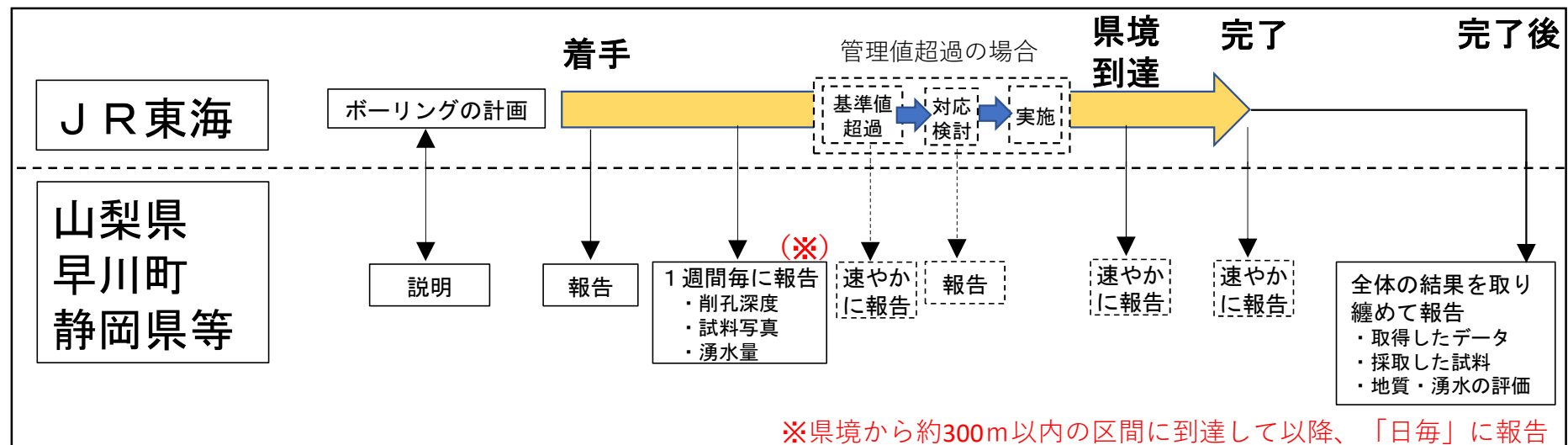


【岐阜県の事象を踏まえた今後の高速長尺先進ボーリングに関する対応として以下を実施（令和6年6月4日付 静岡県中央新幹線対策本部長宛文書『岐阜県内で発生した井戸等の水位低下の事象を踏まえた高速長尺先進ボーリングの対応等について（ご回答）』より）

- ① 県境に近い区間でボーリング調査を行っている間、常時計測を行っている田代観測井において、現地に出向く回数を1カ月に1回から、2週間に1回に頻度を増やし、地下水位のデータを確認します。
- ② 田代観測井で水位低下の傾向が確認された場合には、速やかに静岡県に報告するとともにスリパチ沢の流量を確認します。この場合やボーリング湧水量についてこれまでと異なる傾向を示す場合には、スリパチ沢の流量、田代観測井の地下水位の確認頻度を1週間に1回に増加させます。なお、ボーリング湧水量の傾向の判断に当たっては、静岡県や専門部会委員のご意見もお聞きしていきます。
- ③ 水質や地下水位の変動傾向を併せて確認し、専門家を含む関係者に対応をご相談し、その結果を踏まえて対応します。また、降雨等も考慮のうえで地下水位の低下に伴うスリパチ沢の流量の減少が確認される場合には、一旦ボーリング湧水を止めたうえで、ボーリング湧水と地表水との関連性を把握するために地下水の化学的な成分分析を実施します。なお、流量や地下水位の確認は現地に出向いて実施していますが、通信を利用した確認についても今後検討していきます。
- ④ 県境に近い区間をボーリング調査している間は、ボーリング湧水量、水質は毎日、静岡県に報告します。スリパチ沢の流量、田代観測井の地下水位は確認次第、速やかに静岡県に報告します。また、地下水位の低下やスリパチ沢の流量減少を確認した場合も速やかに静岡県に報告するとともに、専門家を含む関係者に相談します。

高速長尺先進ボーリングにおける調査中の報告体制

- 日々のボーリング先端位置及び代表的な地質の状況と孔口湧水量、水質検査結果を1週間毎に取り纏め、山梨県、早川町、静岡県等に、翌週中にメール等で報告しています。
- 関係者の方々へ送付した資料は、当社ホームページにて公開しております。
- 県境から約300m以内の区間に到達して以降、ボーリング湧水の湧水量、水温、pH、電気伝導度について、頻度を上げて「日毎」に報告を行っています。
- また、県境から約300m以内の区間に到達して以降、常時計測を行っている田代観測井の地下水位とスリバチ沢の流量について、2週間に1度現地で確認次第、速やかに静岡県に報告しています。
- ボーリング先端が県境に到達した際も、その旨を速やかに報告しました。管理値を超える湧水が発生した際も、速やかに報告します。
- 引き続き、県境を越えてボーリング調査を進める場合も、同様に報告を行ってまいります。



※県境から約300m以内の区間に到達して以降、「日毎」に報告
報告に関する流れ